ぽぽデイだより　NO.５８　１０月号

社会福祉法人　ほっとスマイル
ぽぽデイ名塩駅前　669-1134　西宮市名塩新町 5021-11　TEL０７９７－６２－０７０５
ぽぽデイ東山台　669-1133　西宮市東山台 1-1　TEL０７９７－６２－１１６５（1F）
TEL０７９７－２６－７７０５（2F）

先日、あるお子さんの支援会議に出席していたのですが、その席上、その子のお母さんが、「待つということが難しいので、時間がきた（過ぎた）ことを伝えるのに音がでるキッチンタイマーを使ってみようかな」とおっしゃっていました。すると学校の先生が、時間が来た（過ぎた）ということはタイマーで分かるけれど、時間が始まるのはタイマーでは分からないから、やっぱり針がついている（アナログの）時計（教材用）を利用するといいかもね、という話になりました。お話を聞いていて、「なるほどなあ！時間の見える化、時間の聞こえる化ということか！お母さん、よう考えはるなあ」と感心したことでした。それで思ったのですが、よく「切り上げが悪い、切り替えが不得意」というお子さんの話を聞きます。そんなお子さんに対しては、上のように「時間の分かる化、見える化」だけで対応できるのかな？ということでした。時間には、外なる時間（社会的時間＝大人の時間）と内なる時間（個人的時間＝子どもの時間）があると思うのですがどうなんでしょう。内なる時間は子どもが遊びに夢中になっているときの時間。あっという間に過ぎていく時間。一方外なる時間は時計で測ることができる時間。客観的な時間。社会的な時間。さて、この、個人的な、内なる時間、我を忘れている時間の中に急に、「はい、６時になりました。今日はこれでオシマイ！」と社会的時間が飛び込んできたらどうなのでしょう。それこそ、「切り上げが悪い」「場面転換ができない」状態になってもある意味当然のような気がします。「今やっているゲームが終わったら（＝個人的時間）、タブレットはオシマイ（＝社会的時間）だよ」。何気ないことですが、個人的時間と社会的時間を橋渡しするこんな言葉かけの大切さを思います。（M 記）

研修のお知らせ

11 月 7 日(火)10:00～11:30
【将来の自立に向けた、それぞれの
就学先･進路先の選択について】
場所　西宮市総合福祉センター
講師　関西福祉科学大学
准教授　加藤美朗氏
現在の小中高等学校及び大学での特別支援教育や支援の状況について、どのような配慮が進んでいるかなどの情報を交えてその悩みの一助となるような講義をしていただきます。
〇申し込みが必要なので、興味のある方はお声かけください。チラシお渡しします。

きらり（すてきな瞬間を紹介します）

その日の朝、Ａちゃんはぽぽデイに来るのを渋っていて、少し泣きそうになっていました。それでもお母さんに「頑張って！」と背中を押され、うつむきながら靴をゆっくり脱いでいました。その様子をそばでじっと見ていた一つ年上のＫくん、さっとそばに寄って Ａ ちゃんの頭をやさしくなでてあげました。するとＡちゃんの顔がぱぁっと明るくなり、満面の笑みが広がりました。すぐに靴をしまってそのあと小走りでお部屋の中に・・！私たち大人が励ますよりずっと心に届いたのでしょう。Ｋくんのやさしさ、それをうけとめた Ａ ちゃん、ドラマの一場面のような光景にすっかり心を奪われました。

ペアレントトレーニング　２・３回目

９月２２日、10 月 11 日に２・３回目のペアレントトレーニングが行われました。２回目では初めに宿題の「人をほめる」で記録したことを発表しました。気になるところはたくさん見つけられるけれど、ほめることはなかなか難しいのでは？と我々スタッフは考えていました。しかし、どのお母さんも「～してくれました」「～がありがたかったです」とスタッフの予想を裏切って次々と発表してくださいました。そしてほめられた後のお子さんは「嬉しそう、少し自慢げだった」などお母さんたちが喜ぶ表情を見せてくれたようです。宿題だからといつもよりは意識されていたとは思いますが、これが習慣になるとお子さんとのいい時間が増えるかもしれませんね。

次に、行動には前と後の要因があり、そこを工夫することで困った行動を改善できたり、ほめる機会を増やしたりすることができる、ということを学びました。それを踏まえて、お子さんに身につけてほしいことは何か、その関わり方についてもみんなで考えてみました。

環境の工夫、言葉は「短く、はっきりと、具体的に」、絵や写真で示す、などかかわりの工夫の仕方を確認し、目標達成に向けて準備を進めています。

発達障害・知的障害の増加要因について

子どもの減少にもかかわらず障害のある子どもは増加している。厚労省・文科省の調査結果の分析では、「診断基準の改訂」「発達障害の注目」「特別なニーズに応じた教育」「特別支援教育体制の転換」「特別支援教育の理解の浸透」「特別支援学校の評価・期待」等を挙げている。

福祉領域の増加要因は、中軽度であるため福祉サービスを利用していなかった人が、障害の認識の変化で、サービスが受けやすくなったことや障害観や教育・福祉の評価・期待観の変化によって特別支援教育や福祉サービスを受けることの理解が進んだことがあろう。

教育・福祉が期待される児童発達支援や放課後等デイサービスなどの事業が、いたる所で展開をされている。障害児教育の成果は短期では難しいと思う。安定した組織、ぶれない方向性、職員の資質の向上や絶え間ない努力をして、満足して頂ける療育に努めたい。（N 記）

スタッフの一言

９月から勤務させて頂いております山田と申します。お子さん達が楽しい時間を過ごせたらと思っております。よろしくお願いします。

（名塩駅前　山田文恵　）

この度またぽぽデイでお世話になることになりました。よろしくお願いします。

久々子ども達と会って一緒に過ごしているとカラダ背丈の成長はもちろんの事ですが、行動、しぐさ、言葉遣いなど見ているとすごく成長しているなあと実感し、感動させてもらっています。

私も子供達に負けないくらい成長できるよう頑張って参ります。

（東山台　森田宏子）